

第2回中原区SDC創出に向けた検討会開催結果

・実施概要

日時：2月4日 18時30分～20時30分

会場：オンライン

人数：10人

第2回中原区SDC創出に向けた検討会進行資料(抜粋)

1 検討会の目的

中原区らしい市民主体のSDCの創出

- ・中原区にある資源を活用
- ・市民主体の運営
- ・地域の活動や価値を生み出すプラットフォーム

3 検討会の目標

実施プラン作成・スモールスタートによる実践

- ・意見交換会などの成果を踏まえた中原区SDCプランの検討
- ・スモールスタートでの取組開始

2 検討内容

目的、機能、運営体制、担い手の検討

- ・目的の共有(言語化)
- ・抽象的な機能の具体化、・今ある資源で出来る機能の検証
- ・実施する体制検討
- ・担い手の検討

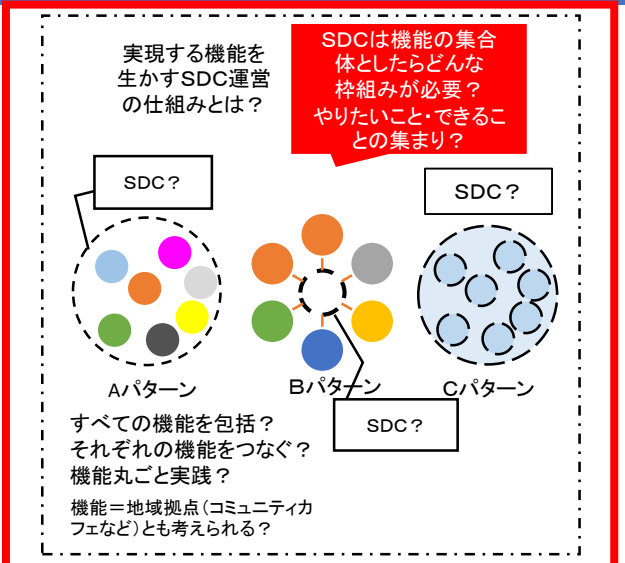
4 実施方法

実践できるプラン作成(できること探し)、プランの実践

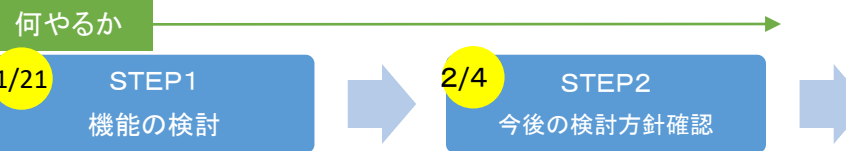
目的共有、資源探し、プラン作成、実践を段階的に進める



※取組と別に全体運営の検討が必要
SDCの目的に向かっているかハンドリングするものが必要か?
個別機能は関心ある方で検討できる。全体運営の検討は...



検討のSTEP



これまでの検討で出てきた機能の整理
→カテゴリ分けして分かりやすい言葉にする
(SDC機能の言語化)
≒ SDC機能の共有

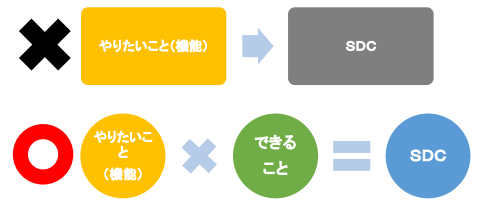
- ①前回のまとめ
- ②SDCイメージ(運営方法)についてパターン提示
- ③今後の検討の進め方提示、方針決め

必要でもコストがかかり過ぎる(資源のない)ものは実現できない



目指していることの共有が大事

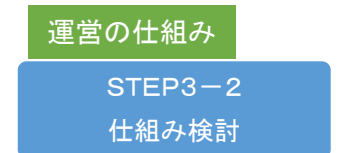
全員に共有するのは難しい...
取組ベースではイメージできていないものも。



意見交換テーマ②



- ①ヒト、モノ、カネ
取組に使えるものとは?
継続性を担保するための資源開発、収入を得る(コストの捻出)手法の検討も
- ②プラン作成
→機能アイデアと資源を結びつけながらプラン検討
→共感を得られるプランについて共感者とさらに検討

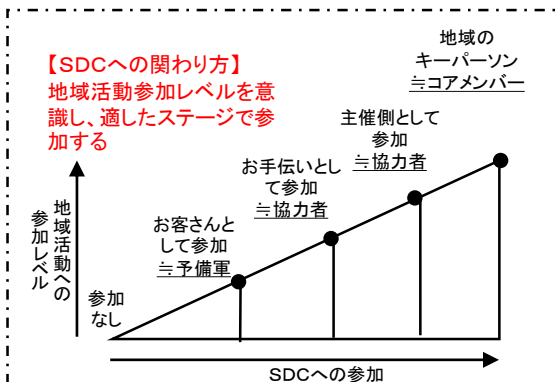


個別の機能をまとめる仕組みの検討

意見交換テーマ①



- ・スモールスタートで始める。始めた機能の集まりが中原区SDC?
- ・最終的な版) 中原区SDCモデルを共有する
- ・改善しながら実施。



【SDCへの関わり方】
地域活動参加レベルを意識し、適したステージで参加する

地域のキーパーソン
≒ コアメンバー

主催者として参加
≒ 協力者

お手伝いとして参加
≒ 協力者

地域活動への参加レベル

参加なし

お客さんとして参加
≒ 予備参加

お手伝いとして参加
≒ 協力者

主催者として参加
≒ 協力者

地域のキーパーソン
≒ コアメンバー

SDCへの参加

第2回中原区SDC創出に向けた検討会開催結果

○第2回中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けた検討会ノート

意見交換テーマ①<SDCの運営の仕組みについて>

- ・(進行資料右上の運営の仕組みの図中)左側の図が望ましいが、組織としての顔がないと活動しにくい。
- ・市民にとって使いやすい、なじみやすいのは右側のパターン。市民活動センター、社協、地域包括支援センター等既存の団体が情報発信やつなぐ取組を行っている。区の地域みまもりセンターにも情報蓄積している。左側のイメージとして、既に複数あるそれらの団体の協議会を作るのはどうか。ただ、市民からは遠い存在。
- ・悩んでいるところ:全ての機能を満たそうとすると整った組織が必要。それだと思い描いていたものと違う気がする。思い描いていたもの:必要なところからスモールスタート。まずは「知る」とか。左側が良い。「となりの。」を活用?スモールSDC。
- ・どの機能をSDCに入れていくのかも要検討課題。知る、つながる、集うすべての機能があるべきなのか。まずゆるくつながり、知るところから入って、右側にスライドしていく形もあるかも知れない。
- ・いきなりCパターンだと、既に活動している人の中には邪魔に感じる人も。まずは人の話を聞いてみるころからでよい。スモールスタート。
- ・既にあるものとの共存も必要。

- ・イメージは、市民が市民の問題を解決していく。区民全体がSDCに参加する。サークル活動・部活動を支援を受けながらやる。ゆるいつながり。参加資格は住んでいる?わかりやすい=参加しやすい
- ・何かひとつSDCというものがあれば参加のハードルは上がるが、分かりやすさはある。区役所も悩んでいるところ。『参加のしやすさ』、『わかりやすさ』どちらを重視するか
- ・〇〇オファー〇〇案内所。既にあるFacebook→色んな活動を一覧に。一番小さなSDCのイメージ。
- ・スモールスタートは橋本さんのイメージ、親しみやすさは参加しやすさにつながる
- ・どのレベルのものをSDCにするのか。ネットワーク=SDC?センター機能があるもの=SDC?
- ・ネットワークは「知る」という面でよい。「つなぐ」という面でも、いつ・どこで活動しているか情報まとめてみる。そこまではネットワーク上でできる。まずはネットワークで「知る」ところから。
- ・一般の住民への価値提供・既に活動している人への価値提供がある。住民と市民活動の間にあるのがSDCだと思っている。
住民をつなぐのがSDCのイメージとしてある。市民活動センターは既にあるので。〇〇オファー〇〇案内所に近いイメージ。

第2回中原区SDC創出に向けた検討会開催結果

- ・〇〇オファー〇〇案内所がSDCと仮定すると、ローカルかわら版は何になる？SDCから生み出されたもの？SDCはそうした活動を生み出すのか？人や団体をつなげる存在なのか？両方なのか？
- ・SDCは組織でなくてもよくて、Facebookのような機能でもよいと思う。
- ・新しい活動を創出する「〇〇オファー」をコアとするならAパターンになるのでは。どこをコアとするか。
- ・基本的考え方の中のSDCの機能には、活動を生み出すことも含まれているが、中原のSDCで必ず全てやらなくてはいけないわけではない。どこまで含むかも検討していく必要がある。

意見交換テーマ②<今後の検討の進め方について>

- ・まず何をすべきかから議論。何をすべきか決めたことを誰がすべきか。Aパターンなら今いるメンバーで活動ベースで検討(自分たちが何ができるか基準に)。Cパターンなら運営をどうしていくか。目指すパターンによって議論の進め方が変わる。



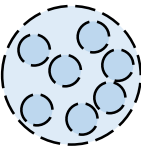
- ・運営の仕組みの方向性を決めないと議論が進まないのではないかと。既存団体をみんなが理解できていないと議論に影響する。まずは既存団体を知ってほしい。
- ・今できることから始めることが大事。まずできる取組を洗い出してみようか。並行で形を決めていくのはどうか。
- ・既存団体・情報を知ること大事。無駄なことになりかねない。STEP3-2の仕組み検討の目鼻をつめて、位置づけていかないと。
- ・議論を進める上で今が分岐点。3パターンのSDCの仕組みのイメージ合わせが必要。ここでしっかりまとめた方がよい。まとめる際に、既存団体や情報がどこに当てはまるか示されるとわかりやすい。
- ・地域みまもり支援センターで『地区カルテ』を作成。全てではないが、ある程度は地域の活動が記載されている。ぜひ見てみてほしい。そして、Slackで皆さんの知っている地域情報を教えてほしい。

第2回中原区SDC創出に向けた検討会開催結果

○第2回中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けた検討会意見まとめ

・意見交換テーマ①<運営の仕組みについて>

・運営の仕組みのパターン比較

比較の視点	Aパターン	Bパターン	Cパターン
イメージ図 ・概要	 <p>・各取組をルールだけでゆるく縛る (例: 月1回の定例会で進捗確認する)</p>	 <p>・事務局が各取組の連絡調整を行う</p>	 <p>・1つの団体が各取組を含むすべてを直接行う(例: 幸区、多摩区のSDC)</p>
組織としてのわかりやすさ (市民にとっての使いやすさ)	×	△	○
運営への参加しやすさ	○	△	×
運営の始めやすさ	○	△	×

・前提として検討が必要な課題

- ・デッサン修正案に記載した機能案のうち、どの機能を実践するか
- ・SDC本体の取組と地域活動の区別(各パターンの小さな○は何を指してる?)
- ・既存団体・事業との連携 → 後日Slackで情報交換

第2回中原区SDC創出に向けた検討会開催結果

○第2回中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けた検討会意見まとめ

・意見交換テーマ②〈今後の検討の進め方について〉

分類	意見
◎【最も多かった意見】	・まず運営の仕組みを考える必要がある
○【他の視点の意見】	・今できることから始めることが大事。それを洗い出してみてもどうか。並行で形を決めていくのはどうか。
☆【検討を進める前提として確認が必要な意見】	・既存団体をみんなが理解できていないと議論に影響する。まずは既存団体を知ってほしい。

第2回中原区SDC創出に向けた検討会開催結果

○既存団体・事業との連携

・Slack「資源情報共有チャンネル」投稿情報まとめ

分類	団体・事業		概要
	【情報収集・発信、ネットワーク化、相談支援を実践する機関とそのデータベース】	【市民団体の相談支援を担う機関】	
①法人	<ul style="list-style-type: none"> ・かわさき市民活動センター(データベース:つなぐっとKAWASAKI) ・中原区社会福祉協議会・ボランティアセンター ・川崎市国際交流協会(川崎市国際交流センター) 	<ul style="list-style-type: none"> ・かわさき市民活動センター(データベース:つなぐっとKAWASAKI) ・中原区社会福祉協議会・ボランティアセンター 	法人化されており組織体制が整い、活動内容は明確で複数存在
②行政又は行政バックアップの団体	<ul style="list-style-type: none"> ・中原区内地域包括支援センター(データベース:川崎市地域包括ケアシステムポータルサイト) ・中原区役所地域みまもり支援センター ・中原区まちづくり推進委員会(令和3年度で解散予定) ・大企業と中小企業の知的財産マッチング支援 		行政の一機能として組織化され、活動内容は、二つの支援センターはそれぞれ専門的で明確(特化型)。まちづくり委員会は包括的で自由度が高い(包括型)
③市民団体	<ul style="list-style-type: none"> ・かわさき若者会議 ・かわさき福祉情報サイト ・趣味なび(川崎市の教室一覧) 	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎プロボノ部 	市民個々人のボランティアで組織運営がなされ、活動内容は、プロボノ部は特化型でわかもの会議は包括型

第2回中原区SDC創出に向けた検討会開催結果

・既存団体・事業との関わり方の手法について（Slack「資源情報共有チャンネル」投稿より）

- ① 既存団体の情報をまとめてデータベース化してSDCメンバーや区民も自ら調べられるように公開する（データベース化、情報公開）
- ② 市民からの相談に対して、SDCメンバーが適切な既存団体を紹介する（マッチング、コーディネート）
- ③ SDCメンバーが事務局となって既存団体を束ねた協議会を立ち上げ、団体毎の役割分担などの整理や、区民にとって分かり易くなる様に各団体と調整を図る（協議会）

・SDCの情報発信に関する意見（Slack「資源情報共有チャンネル」投稿より）

既存団体で発信されている情報以外の情報を取り扱う必要がある。

→情報の収集発信をテーマとして、わかもの会議的なゆるいつながりを持った集団として、まずは立ち上げるという道があるのでは。